



# 農業保険実施能力向上プロジェクト ニュースレター

2021年10月

## 収量インデックス保険販売促進

収量インデックス型農業保険のパイロット事業の対象地である西ジャワ州カラワン県では、対象となる5郡のうち3郡が加入期限を迎え、残り2郡における販促活動も佳境を迎えています。10月12-14日には、プロジェクトスタッフがパイロット事業の進捗確認やCCE（ツボ刈り調査）の準備の為に各郡を訪問しました。新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていることもあり、新しい保険商品を周知し、当初の加入目標を達成することは困難な状況にあります。関係者は課題の洗い出しや改善に向けて積極的に対応しています。小規模農家の多い村を担当する郡農業局との打合せでは、保険金額が土地の使用料を含む生産費用に見合わず必要なコストがカバーしきれていないことなど課題が指摘されました。



↑ ツボ刈り(CCE)の選定と実施

## JASINDOとの意見交換

10月19日JASINDO本社にて、JASINDO本社、ブカシ支社及びプロジェクト事務局の三者で、収量インデックス型農業保険のパイロット事業実施にかかる年内の計画や、再保険に関する研修案について話し合いました。収量インデックス型農業保険を取り扱うブカシ支店のスタッフからは、農業省の公的保険の販売には、現地農業局や普及員、さらに農家グループとの調整が必要となり、時には難しい局面での対応も必要になるとのことでした。また、農業省の支援対象である2ヘクタール以下の土地を耕作するコメ農家の多くは、例えば保険料が少額でも将来のリスクに向けた支払いを好まないことなどが指摘され、一定数の農家を保険で守るためには保険の強制加入がより良い選択ではないか等の意見が述べられました。



また、農業省の支援対象である2ヘクタール以下の土地を耕作するコメ農家の多くは、例えば保険料が少額でも将来のリスクに向けた支払いを好まないことなどが指摘され、一定数の農家を保険で守るためには保険の強制加入がより良い選択ではないか等の意見が述べられました。